

令和 7 年度 第 1 回ナセBA運営協議会議事録

1.開催日時

令和 7 年8月 5 日(火) 午後3時～午後5時

2.開催場所

ナセBA1階・体験学習室

3.出席者（10 名出席）

（委員）

我妻 仁(会長)、西山 まなみ(副会長)

高野 浩男、伊藤 由美子、畑田 秀将、安部 文子、佐藤 繁、細谷 信義、田中 明子、
吉澤 恭子

（事務局）

曾根 伸之、渡部 洋己、設楽 由加利、高橋 修、遠藤 朋香、齊藤 かおり、福石 敏史、
宮澤 崇士、遠藤 友紀

4.開会

5.委嘱状交付

6.理事長挨拶

この運営協議会は、ナセ BA の運営に関して、広く多方面の見識のある皆様から多様なご意見をいただき、業務の改善に活かすため例年開催している。忌憚のないご意見を頂戴したい。

昭和から数えて 4 代目となる市立米沢図書館が、この複合施設ナセ BA の中に平成 28 年 7 月にオープンしてから、来年で早 10 年目を迎えようとしている。新しい図書館の構想検討委員会に参加して、高校生の声を届けてもらった。新図書館整備検討委員会報告書の中には、「ネットワークとつながる図書館」という文言が記載されている。「ネットワーク」とは、学

校や家庭、上杉博物館、コミュニティーセンター、さらには山形大学や米沢女子短期大学等の高等教育機関との知のネットワークも含まれている。さらには、中心市街地の活性化に関わる、まちづくりネットワークという意味も含まれている。新図書館の構想検討当時、高校生の一番の要望は広く使いやすい学習室だった。令和 6 年度の状況を概括すると、学習室利用者数が前年度比で 10%以上増加しており、8 万 369 人だった。多くの高校生をはじめ、市民の皆様のご利用に感謝申し上げたい。それと比例するような形で入館者数もコロナ禍から回復している。一方、図書館本館の貸出冊数 33 万 4,765 冊という数字については、図書館担当者はまだまだというように認識している。ギャラリーの年間入館者数も 43,354 人と、目標値に到達していない。この点については後ほど、現状の分析と今後の対策についてご説明する。

新図書館の構想検討当時から、社会情勢やニーズ、市民の生活は変わってきている。今後、現状に合わせた最適化を図ることが必要であると考えている。図書館、市民ギャラリー、それぞれが市民の芸術文化の振興と市街地の活性化に寄与できるよう、強い発信力を持っていきたい。本日も限られた時間だが、よろしくお願いしたい。

7.会長挨拶

毎日暑い中、この涼しい図書館で、今日も一生懸命勉強している高校生の姿を見たり、調べ物をされているご年配の方を見ると、本当に市民にとってありがたい施設だなと実感した。これからも益々、ナセ BA が文化的な拠点として米沢に残り、さらに発展していけるように、貴重なご意見を頂戴したい。

8.協議

(1)令和 6 年度事業報告及び事業評価について

事務局より資料に基づき説明。【資料 1】【資料 2】【資料 3】【資料 4】

(委員)

【資料1】15 ページの予約・リクエスト件数 21,514 件の予約とリクエストの内訳を教えてください。

(事務局)

リクエスト件数は、【資料 1】25 ページの⑦「希望図書(リクエスト)の対応」である。これは、購入や相互貸借(他の図書館から借りる)等、当館に所蔵の無い資料について対応した件数であり、その後、購入後、または借受後に予約処理がされるため、リクエストの対応件数も最終的に予約件数に含まれている。

(委員)

希望図書(リクエスト)対応のうち、不購入となったケースにはどんな理由があるのか。

(事務局)

例えば、少し古い本で現在流通していないものや、内容が一般向けではなく研究者向けの資料等である。

(委員)

図書館の貸出利用者の集計は、利用者カードを元に行っているのか。子どもがカードを忘れた際に家族のカードで借りる場合があると思うが、この場合はその家族の貸出実績となるのか。

(委員)

今までの推移を見ることができる重要な統計資料であり、図書館職員の努力が浮き彫りになる資料だと思う。貸出数値が中心になっているが、図書館は市民の憩いの場であってほしいとか、ほっとできるような空間であってほしいといった願いもあると思う。酷暑の中で涼を求めて来館する方もいると思われるが、昨年に比して入館者数が増加した印象はあるか。

(事務局)

今年は入館者数が毎月伸びており、7 月が特に多い。昨年度は 1 日平均 500 人程度だったが、7 月は 577 人だった。反面、貸出冊数は昨年度より減少しているため、涼を求めて来る方もいらっしゃると思う。また、最近は閲覧席で勉強する中高生、新聞や雑誌を読む大人の方が多く見られ、本は借りないが館内で過ごす方の多さを感じている。

(委員)

米沢市内の様々な所にクーリングシェルターが設置されているが、ナセ BA はクーリングシェルターとして最適だと思う。貸出冊数に表れずとも構わないのではないかな。足を運んでもらうために積極的アピールすることが大事だと思う。例えば、建物の外に「涼みに来てください」等の横断幕を設置するのはどうか。普段来ない方も来て、徐々に本を借りたり、ギャラリーに入ったりするようになるのではないかな。快適に過ごせる場所であるというアピールが、貸出冊

数に繋がると思う。

(事務局)

横断幕はすぐには難しいが、そういった場であるという PR は何らかの形でしていきたい。

(委員)

昨年度、米沢市と商工会議所で作っている中心市街地活性化協議会で、まちなか押しグルメという事業を行った。市内飲食店のショート動画を SNS で発信する事業で、去年は 40 店舗参加した。公共施設の枠でナセ BA にも参加してもらったが、40 万回再生された内、ナセ BA が 3 万 5 千回再生でトップだった。他の飲食店で多い所は 1 万～1 万 2 千回だった。紙ベースだと手を取る方は年配の方で、若い世代には取っていただけないが、SNS は広い世代の方にご覧いただける。今回は、多くの方にナセ BA を知っていただけたので、ぜひ今後もこのような事業があれば参画していただきたい。情報発信が大切な世の中だが、見てもらえないと PR に繋がらない。ぜひ今後も一緒に発信をしていただきたい。

(2)令和 7 年度事業計画について

事務局から資料に基づき説明。【資料 5】【資料 6】【資料 7】【資料 8】【資料 9】

(委員)

以前よりギャラリーコンサートが少なくなっている。以前は毎月のようにあったのではないか。

(事務局)

以前は年 5～6 回開催していた。コロナ禍においても制限がありながら可能な限り開催してきた。ただ、現在の財団の運営体制の中で、従来のような開催が難しくなっている。以前は、図書館への音漏れの影響を懸念して図書館休館日の夜に開催していたが、あまり影響が無いようなので、昨年度からは開催日程の縛りを無くした。回数は減っているが、開催しやすく、皆さんが来場しやすい日程で工夫をしながら開催している。

(委員)

ギャラリーコンサートは高校生の発表の場に最適。音も響き聴きやすいので、コンサートをたくさん開催してほしい。

(委員)

パスファインダーの発行回数と作成対象をどのようにしているのか。レファレンスサービスを促進する上で、パスファインダーは効果的だと思う。情報サービスを PR する一つの材料になる。一般の方向けの質問に対応できるパスファインダーもあるとより効果的だと思う。

(事務局)

年に 1 回のペースで作成しており、現在は置賜の方言についてのパスファインダーを作成中。

(3)これからのナセ BA に期待すること

(委員)

他の図書館に行っても人があまりいないが、ここは常に人がいて職員も頑張っている姿を見られて素晴らしいと思う。ギャラリーの来館者数の減少が報告されたが、原因として美術団体の減少がある。芸文協でも、高齢化によって展示会ができないことが増えている。また、若者が関心を持てるような企画が無いと、20～40 代の鑑賞者が増えないといった課題がある。ギャラリー運営に協力できる企画内容を考えたい。

図書館事業に関しては、貴重な郷土資料の研究、保存、レファレンス、アーカイブといった他市には無いようなサービスにさらに尽力してほしい。また、デジタル化、ネットでの利用等も含めて、直接来館者だけではない利用拡大を期待している。予算が削られないよう、市長にも要望した。

(委員)

私は米沢美術家会議の一員で、年に 1 回米沢アンデパンダン展を開催している。今回は、6 日間で 1,342 名が来場した。戸塚山こども園の園児 15 名による共同制作作品が出品されたため、子ども連れのご家族が多く来場された。実行委員に絵の指導を受けている高校生以下の方 19 名の出品もあった。子どもが利用することで、親や祖父母が来る機会になると感じた。また、社会福祉協議会のいきいきデイサービスの皆さんの来場もあり、喜んで作品を閲覧になっていった。子どもたちと高齢者がナセ BA を利用する方法として、様々な教育施設や福祉施設の方々にもより多く活用していただけるよう宣伝をしていきたい。

(委員)

ナセ BA の東側に、商工会議所の新会館の建設が進んでいる。完成は来年の 8 月～9 月になると思う。商工会議所でも、ナセ BA の事業と連動した事業を実施したい。商工会議所

では会員の事業や創業の相談に応じ、地域の活性化を図るという使命がある。ナセ BA と連携し事業を進めていきたい。

(委員)

ティーンズコーナーの充実と、ティーンズサポーターに 33 名も応募があったのは素晴らしいと思う。図書館はサードプレイスとなることも必要だと思う。10 代の頃に図書館が居場所だと認識すると、大人になっても「何かあったら図書館に行こう」と思えるようになる。「図書館は涼しくていい」、「漫画も読める」ということをどんどん SNS で発信していくと良いと思う。より小さい子については貸出冊数も多いが、子どもに本好きになってほしいという親が頑張っているためリピーターが多い、という印象がある。また、ナセ BA 周辺には体を動かす場所が無い、図書館で静かにできるようにどこかで体を動かしてから来なくてはならない。周辺エリアの課題だと感じる。

(委員)

南原コミュニティーセンターに自動車文庫アタゴオルが来るよう早急に手配していただいた。アタゴオルが目を引き、利用されている。

先日長井市の「くるんと」に行ってきた。図書館、カフェ、子どもの遊び場が併設されている複合型施設で、隣に市役所がある。若い世代の家族連れが多いことに驚いた。飲食スペース、ウォーターサーバーがあり、遊び場はネットで予約できるため、家族連れには良い施設だと感じた。ナセ BA は家族連れで来ることはあまりないのではないかな。くるんとは遊び場もあり、図書館も利用でき、1 日無料で過ごせる。外には水場もあり、公園も併設されている。観光課とコラボしてイベントも開いている。イベントのついでに図書館に入ってみようというきっかけになる施設だと思う。くるんとを含めた周辺のスタンプラリーイベントも開催されており、子どもも大人も楽しめるのではないかなと思った。

高校生の意見を取り入れてほしい。高校生が図書館に行って、自分の中で「バズる」何かがあれば魅力になる。スタンプラリーをスマホでできれば若い世代も使いやすい、スタンプを集めて何か貰えたら嬉しいと思う。商工会議所とコラボして飲食店の割引券や、ガチャガチャができるポイントを付与すると子どもは喜ぶのではないかな。図書館に来るきっかけになるイベントがあると良い。

(委員)

遊び場や託児所がセットになっている施設はトレンドになっている。また、閲覧サービスを充実させて、資料をゆっくり読んでもらう自己完結型のサービスが話題で、図書館も力を入れている。ただ、図書館の機能として、情報サービス、その中でも特にレファレンスサービスが一般の方に普及していない。今後、商工会議所の新会館も建設されるということだが、商工

会議所とタイアップしてレファレンスサービスを充実させようという動きも、近年の図書館のトレンドとなっている。例えば、「シャッターガード」の商品化は、図書館で受けたレファレンスを商工会議所に繋いで実現した事例。一般の方の相談機会が増えれば、新しいニーズが生まれていくのではないかな。

(委員)

ナセ BA の立ち上げの頃から関わっているが、図書館のあるべき姿は様々な方が試行錯誤されてきた。先程「くるんと」の話があったが、私も幼児教育者として同じことを思った。しかし、市立米沢図書館は心がリセットされる空気をを感じる。何回も訪れるうちに米沢市の図書館はこうあって良いと思うようになった。最近訪れたことのある他県の図書館はショッピングセンターの中にあり、とても賑やかで、買い物帰りの方が立ち寄られていた。その市町村で色々な図書館があって良いと感じた。子どもは遊べた方が良く、ティーンズが親しみを持って来れるような図書館であってほしい等、思いはたくさんある。しかし、ナセ BA は特にギャラリーの強みがあり、地元の作家と作品を見ながらお話しできる場はなかなか無い。大変な毎日をリセットさせてもらっている。

(委員)

保護者の方が小さい子どもを連れて来館されている姿をよく見る。小さい頃から本に触れることはとても良いことだと感じている。高校生は、コロナを経て GIGA スクール構想が進み、1 人 1 台端末を持つようになった。端末を持つことによって本を使わずに調べられるため、学校図書館に足を運ぶ機会が少なくなっている。小さい頃に本を読んだ楽しい記憶や図書館を訪れる習慣が大切だと思う。貸出冊数や来館者数には結びつかずとも、図書館に行って読書だけではなく様々な情報を得たり憩いの場であることを子どもたちに植え付けられたら良いと感じている。

ティーンズサポーターに参加した高校生が学校の中で読書活動の啓発をするのは難しい。図書館の SNS を活用して高校生に周知してほしい。イベント情報だけではなく、ナセ BA の日々の営みを発信すると生徒たちの見方が変わるのではないかな。

(委員)

令和 7 年度全国学力・学習状況調査の山形県の結果は芳しくない。また、3 年毎の経年変化分析調査の結果でも学力の大幅な低下が見られた。最前線にいる教師も危機感を感じている。タブレットの利用やデジタル化によって質的な向上は図られているが、子どもたちが日常でどれくらい活字に触れているか、考え直さなければいけない。読書や新聞を通した語彙力の低下は、今の子どもたち全体の問題だと感じている。学校だけではなく保護者や地域と情報を共有しながら、活字に触れる大切さを伝え語彙力を豊かにするために、教職員と相談しながら手を打って行かなければと感じている。図書館に触れさせることをまずは大事にしたい。

小さいうちから図書館に来て、たくさんの本に触れる機会が多くなれば良いと思う。学校との連携をさらに大切にしていきながら、子どもたちの学力という側面からも、読書活動の推進に尽力しなければいけないと改めて感じた。

（事務局）

様々な視点からのご意見に感謝申し上げます。貸出冊数や入館者数は非常に気にかけられている。山形県立図書館も入館者数は増えているが貸出冊数は伸びておらず、他館もそのような傾向がある。読書離れが進んでいることが危惧される。

先日来館された利用者が、他県に引越した知人の子どもが米沢の図書館が一番だと言っていたと職員に伝えてくれた。ありがたく励みになった。当館はハード面の素晴らしさだけではなく、利用者で作り上げてきたもの、作り上げるものがあつての図書館であり、ナセ BA であると改めて感じた。図書館資料の充実だけではなく、レファレンス対応やちょっとした問いかけにどう応えるか、居心地の良い図書館にするためのサービスの向上など、職員の温かさをもった接遇を大切にしながら環境整備に励み、図書館を作り上げていかなければならないと思う。

（4）その他

事務局よりギャラリー自主事業評価へのご協力のお願い

（委員）

ナセBAは立地的には厳しい部分もあり、子育て支援施設が複合された施設とは違った環境にある。しかし、特集コーナーや新聞書評に掲載されている本の紹介、1冊ずつ職員のコメントを書いたカードを作ったり、職員の日々の地道な活動が実を結んでいると思う。

先日久しぶりに絵本コーナーを見てみたが、本当に充実している。昔子どもたちに読んだ本の続きはどうなっているのか、絵本を探して楽しい時間を過ごした。図書館でこんなに楽しい時間を過ごした、こんなこともできる、こんな楽しみ方もあるといった個人の体験を集めて発信すると良いのではないか。

9. 閉会（館長より）

様々な視点から温かいアドバイスを頂き感謝申し上げます。来年はナセ BA が開館して 10 周年になる。7 月末で入館者が 280 万人を超えたため、おそらく今年度中に 300 万人を達

成するのではないかと期待している。来館者数の重さをかみしめて、多くの皆様に利用いただいていることに感謝しながら、改めて努力していかなければならないと思った。頂戴したアイデアを少しでも実現に繋げられるよう、利用者の声を聞きながら鋭意努力していかなければならないと思っている。ご指導いただきながら進めていきたい。引き続きお願い申し上げます。